

EXERCISE 169

〔多胎妊娠の管理シリーズ〕
多胎妊娠の実態とその予防

Q 844 2 卵性双胎の危険因子はどれか。

- a) 未婚
- b) 母体の高年齢
- c) 子宮内膜症
- d) 子宮筋腫
- e) 糖尿病

Q 845 3胎以上の多胎について正しいのはどれか。

- a) 頻度は上昇し続けている
- b) 近年の頻度は分娩百万あたり約60である
- c) 3胎はクロミフェン療法によるものが最も多い
- d) 5胎は hMG-hCG 療法によるものが最も多い
- e) 7胎は IVF-ET によるものが最も多い

Q 846 hMG-hCG 療法について正しいのはどれか。

- a) hMG の投与量は多胎分娩率とは無関係である
- b) 間歇的 FSH 注入法は多胎の副作用がない
- c) 経腔超音波断層法による卵胞径のモニターは必須である
- d) 径17mm 以下の卵胞は hCG を投与しても排卵しない
- e) 母体の基礎疾患と卵巣過剰刺激症候群の発症とは関係がない

Q 847 IVF-ET と多胎妊娠について正しいのはどれか。

- a) 新鮮胚の移植数と多胎分娩率の間には強い相関がある
- b) 新鮮胚の移植数を増加させると妊娠率も直線的に上昇する
- c) 多胎妊娠の問題を考えると新鮮胚の移植数は4個以内にすべきである
- d) 凍結胚を用いると多胎妊娠の頻度は上昇する
- e) 母体年齢が40歳以上になると多胎妊娠の頻度は上昇する

Q 848 双胎妊娠について正しいのはどれか。

- a) 1955年から1975年まで、双胎の頻度は一定であった
- b) 1975年以後増加したのは主として1絨毛膜性双胎である
- c) 双胎の頻度は上昇し続けている
- d) 不妊治療に関連するものが全体の約半数を占める
- e) 遺伝的素因と関係が深いのは1卵性双胎である